

この写真は田口哲氏より提供頂いた写真です。



環境省レッドリスト(2018) 準絶滅危惧 (NT)

県内の生息数は多くない。アマゴの放流が行われてきたことで若干は生息し、稀に確認される。

サケ科 サケ属

【全長】40cm

サツキマス (降海型)

学名: *Oncorhynchus masou ishikawae*

分布域

伊豆半島以西の太平洋側と四国・九州の瀬戸内海側が自然分布。

生息域

河川では中流域～上流域。



波松の海水域産スマルト個体 4月約20cm

春(3～5月頃)に孵化した稚魚は、中流域上部～上流域の流れの緩やかな場所に生息し成長する。6月頃になると少し流れの速い場所へと生息場所を変える。秋(9月頃)になると背鰭の先端が黒くなり、スマルト化(海に下る準備)が始まる。冬の訪れとともに海に下り、海での生活を始める。約4～5ヶ月間を海で過ごし、急速に成長する。翌年の春(4月下旬～5月頃)に全長35～50cmに成長し河川に遡上する。河川で成熟するのを待つ。8月頃から婚姻色を示すようになり、10月中旬から産卵期を迎える。産卵場所は河川の中流域上部～上流域の砂礫底部で、産卵床を掘り産卵する。産卵後、その一生を終える。

移入種

回遊魚

※ ヤマメ・サクラマスと比較し、アマゴがサツキマス(降海型)になる比率は低い。しかし、福井県でも生息数は少ないがサツキマスの遡上が確認されている。